

第 10-12 回 (2020/7/14-7/28)	総合演習 北村由美准教授 (附属図書館)
--------------------------------------	--------------------------------

・例年はグループワークが中心となるが、今年度は初のオンライン授業ということもあり、個人ワークで進めた。来年度以降はグループワークも検討する。また、昨年度はテーマを選択制としていたが、今年度は自由に設定してもよいとした。

■ 第 10 回 : 7 月 14 日(火)

場 所 : Zoom による。学術情報メディアセンター南館 303

参加者 : 受講者 15 名 演習補助者 6 名

講義資料 : 講義スライド / キーワードマップ / レビュー論文 / 第 10 回課題一覧 / 課題説明スライド

➤ 予習課題

- 以下のレビュー論文について、構造を意識しながら読み、要約する。
 《佐々木 尚之. フィンランドの家族に関する研究動向. 家族社会学研究. 2016, vol. 28, no. 2, p. 234-241.》

➤ 講義 (30 分)

- 先生の自己紹介・これまでの内容の振り返り・期末レポートの説明
- レビュー論文とは
 - ・ 特定のテーマに関するこれまでの先行研究を整理し、そのテーマに関する課題を提示している論文
 - ・ レビュー論文におけるオリジナリティとは、研究論文のオリジナリティと異なる。先行研究をどのようにみているか、どこまで広く深く理解できているかが重要。
- 一般的なレビュー論文の構造
 1. イントロダクション (研究の背景、問い: 著者の問題意識)
 2. 研究方法 (先行研究を収集する範囲や方法)
 3. 先行研究整理 (独自の視点によるレビュー)
 4. 考察 (先行研究で言及されていること / いないこと)
 5. 参考文献リスト
- 一般的な研究論文の構造
 1. イントロダクション (研究の背景、問い: 著者の問題意識)
 2. 研究方法 (研究の対象・調査手法)
 3. 先行研究レビュー (先行研究の整理、先行研究における本論文の位置づけ)
 4. 結果とその分析
 5. 考察・結論 (新しい知見とその意義)
 6. 参考文献リスト
- 学会誌と紀要
 - ・ 紀要とは、大学や研究所などで出す、研究論文や調査報告書などを載せた定期刊行物。査読制度があるものや調査報告が中心となるものなど、内容は多様。
- レポート課題への一般的なアプローチ
 - ・ 課題の意図を理解した上で、テーマを設定し、テーマに関する文献を網羅的に収集し、理解する。先行研究を踏まえた上で、自分の考察を述べ、新しい視点や事実を指摘する。
 - ・ 本授業の場合は、設定したテーマに関連して何を取り上げたいか、その問題についてどのような分野 (角度) から検討したいか、どのようなキーワードが考えられるか、これらを一文で表現するとどうかを考える。その上で、そのテーマについて先行研究を調査し、論

点を整理することが必要。

- テーマの設定方法
 1. 事典をひいてみる (What)
 2. 4W1H を考える (When : 年代、Where : 場所、Who/to Whom : 誰が/誰にとって、Why : なぜ、How : どのように/どのような)
 - ・ アプローチする角度 (分野) を考える。社会、経済、政治、技術 等
 - ・ キーワードマップを作成する。
- キーワードマップ作成のヒント
 1. 基礎知識の確認
 - ・ 百科事典を引く方法。例として「Japan Knowledge」を紹介。
 2. 概念の整理と構造化
 - ・ 下位概念になるほど問題が細分化され文献は少なくなり、上位概念になるほど問題が大きくなり関連文献は多くなる。
 - ・ テーマを絞ったり、広げたりする際に、下記のような各ツールを活用できる。
NDLサーチ / JST シソーラス / JST シソーラスマップ / Webcat Plus 連想検索 / 新書マップ

➤ 課題説明 (10分)

- ・ キーワードマップの作成、テーマの設定、EndNote の登録、次回予告
- ・ 予習課題：下記ウェブページを一読し、著作権クイズに回答する
公益社団法人著作権情報センター「著作権って何？ (はじめての著作権講座)」の一部分
<http://www.cric.or.jp/qa/hajime/>
文化庁「著作物等の保護期間の延長に関する Q&A」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/kantaiheiyo_chosakuken/1411890.html

➤ 演習・作成したキーワードマップの発表 (50分)

■ 第 11 回 : 7 月 21 日(火)

場 所 : Zoom による。学術情報メディアセンター南館 303

参加者 : 受講者 17 名 演習補助者 6 名

講義資料 : 講義スライド / 第 11 回課題一覧 / EndNote の使い方

➤ 講義 (20分)

- 著作権について
 - ・ 課題としていた著作権クイズ 5 問の解説
 - ・ 著作物の保護期間延長
 - ・ クリエイティブ・コモンズの考え方
- 引用・参照の定義とルール
 - ・ ルールやポイント
 - …指定されたフォーマットで参考文献リストを作成する。自分の文章と引用部分との主従関係を明らかにする。引用部分を明確化し、出典を明示する。
 - ・ バンクーバー方式とハーバード方式の説明
 - ・ 図・表の引用方法
 - …出典と加工方法を明記する。
 - ・ 「引用」「参照」の意味
 - …自分の意見や発想の根拠を明示する。自分の意見と他人の意見を区別する。学問は先人たちによる積み重ねであり、後輩に引き継ぐためにも引用・参照は必要。
- レポート課題のポイント
 1. 関連資料を十分に網羅し、読み込んでいるか

2. 関連資料のポイントを的確にとらえられているか、他の人に分かりやすく伝えられているか
3. 自分ならではの着眼点で、先行研究を考察できているか
4. 引用と文献リストの書式をおさえられているか

➤ 講義（15分）

- EndNote の使い方
 - ・ 文献管理ツールとは何か
 - ・ ログインの方法
 - ・ 各種論文データベース（KULINE / CiNii Articles）から EndNote への論文情報の取り込み方
 - ・ グループ整理と文献情報の編集
 - ・ EndNote を利用して参考文献リストを作成する方法
 - ・ EndNote で共有する方法
- ◇ 受講者には、事前に EndNote のアカウント登録を行ってもらった。
- 学習支援サービス PandA による課題提出・資料の共有について

➤ 演習（55分）

➤ 課題（宿題）

- ・ EndNote に文献情報をインポートし、メールアドレスを用いて共有する課題

■ 第12回：7月28日(火)

場 所：Zoom による。学術情報メディアセンター南館 303

参加者：受講者13名 演習補助者8名

講義資料：発表順名簿

■ 総合演習発表概要

- ・ 各自設定したレポートのテーマと構成について発表を行う。
- ・ 発表時間2分＋コメント1分とする。

➤ 発表（90分）

- 「教育心理学 学習の動機付け」
- 「発達障がい児が学習に意欲を持つためのアプローチ法」
- 「上代・中古の和歌における「もみじ」の漢字表記とその意味について」
- 「知的障害者の地域生活について」
- 「中国哲学における生命観と東洋医学」
- 「養子の今昔」
- 「日本のフードバンク事業の現状と課題」
- 「AI社会のキャリア教育」
- 「現代社会における「世代間格差」の問題」
- 「SNSにおける誹謗中傷の現状と対策」
- 「ADHDの治療の現状とこれから」
- 「日本語における標準語の歴史と現在-戦後の研究動向-」
- 「戦時中（日中戦争以降）の庶民の暮らし」
- ・ 事務連絡（最終レポートやアンケート等の案内）

（文責：山岸 瑤果）

□2020年度の主な変更点

- 授業会場について
 - ・ 先生と補助者のみ学術情報メディアセンター南館 303 に集まり、受講生は Zoom を通したオンライン参加とした。それにともない、例年グループワークを行うところも個人ワークとした。
- レポートのテーマについて
 - ・ 昨年度は先生および補助者で用意したテーマ案からテーマを選んでもらっていたが、今年度は個人ワークとなることもあり、テーマ案は参考程度にとどめて提示し、選択の自由度を高めた。テーマ案は IN/DB と合同で打ち合わせを行って作成し、授業内で一貫性をもたせた。
- 課題について
 - ・ レビュー論文の構成に関するグループワークを行わない代わりに、構成要素の分析と内容の要約を課題とし、提出してもらった。
 - ・ レポートのテーマに関連する図書を借りてくるという課題について、今年度は電子ブックでも可とした。
 - ・ RefWorks の提供終了にともない、EndNote Basic を用いて文献情報をインポートし、共有する課題に変更した。
 - ・ 講義スライドなどの授業資料の共有、課題の提出はすべて PandA 上で行った。
- 発表について
 - ・ 今年度はオンライン授業のため、グループ発表ではなく、個人発表とした。
 - ・ 昨年度は発表を 2 回に分けて行ったが、総合演習の授業が全 5 回から全 3 回になったため、全員が最後の 1 回で発表を行った。
 - ・ 発表の評価については、発表評価シートなどは用いずに、発表後に受講者 1 名がコメントをするという形をとった。

□感想・反省等

- 授業会場について
 - ・ オンライン授業となったことにより、Zoom の画面操作や接続不良などで躓くこともあったが、その場で解決できる場面が多く、大きな問題にはならなかった。また、先生と補助者が集まった学術情報メディアセンター南館 303 は部屋が広く、ソーシャルディスタンスをとって臨むことができた。
- レポートのテーマについて
 - ・ 昨年度、IN/DB 授業の最初の時点から希望テーマに沿ったグループ分けを行い、それを総合演習で引き継いでもよいのではないか、という意見がチーム内で出されたため、今年度は総合演習までテーマを一貫させた。個人ワークであること、かつテーマが自由選択であることから、受講生は自身の興味関心に従って、より主体的に取り組めるようなテーマを設定できたと思われる。
- 課題について
 - ・ EndNote では、文献情報を共有する際に、共有したい相手のメールアドレスを入力する必要があるが、今年度は補助者のみに共有してもらったため、大きな問題は起こらなかった。来年度以降、グループワークの一環として受講生同士で共有させる場合には、スムーズに共有できる方法を検討する必要がある。
 - ・ EndNote は日本語での参考文献リスト作成に十分対応していなかったため、指定した SIST の形式に沿っていない文献リストを作成してしまった受講生が多かった。来年度は、EndNote で文献リストを作成する際の注意点について、事前に案内しておく必要がある。

- ・ すべての課題を PandA 上で提出させたが、特にフィードバックを行わなかったため、課題が提出できていないことに気付かない受講生もいた。それぞれの課題について、受付確認やコメント等を行うのが望ましい。
- 発表について
 - ・ 今年度は個人での発表としたが、大きな問題点はなかった。来年度以降、授業内でグループワークを取り入れる場合でも、発表は個人で行うとよいのではないか、という意見がチーム内で出された。
 - ・ 今年度は発表内容をスライド1枚にまとめるよう指示したが、発表時間内に収まるのであれば、スライドの枚数は自由としてもよいと思われる。
- その他
 - ・ PandA 上で補助者が設定しておくべき項目について整理し、リストにまとめたことで、設定忘れを防ぐことができた。変更のあった箇所を更新して、来年度の補助者に引き継ぐとよい。
 - ・ PandA について、本授業のコースサイト以外にも、受講生が参加しておらず、気軽に修正したり機能を試したりすることができる、練習用のコースサイトがあればよいという意見があった。
- アンケートについて
 - ・ PandA の「テスト・クイズ」より、毎回の授業後にアンケートの提出を求めたところ、第10回は13名、第11回は12名、第12回は10名から回答を得た。第10～12回のアンケートに少なくとも1回以上回答した受講生は13名だった。
 - ・ 第10回の平均値はそれぞれ理解度 2.23、有用度 2.08、進み具合 2.46 であった。
 - ・ 第11回の平均値はそれぞれ理解度 2.36、有用度 2.18、進み具合 3.09 であった。
 - ・ 第12回の平均値はそれぞれ理解度 1.90、有用度 2.10、進み具合 3.00 であった。
 - ・ 授業前と比べて、授業の目標についてどれくらいできるようになったか尋ねたところ、平均値が2を上回ったのは、「プレゼンの手法を身に付けることができた」の1項目のみだった。本授業の到達目標に多くの受講生が到達できたと思われる。
 - ・ 授業を知ったきっかけについて、「シラバス」が多かった。
 - ・ 受講理由について、「授業内容に興味があったから」「今後の研究・学習に役立つそうだから」「図書館の利用法を知りたかったから」が多かった。
 - ・ 授業で特によかった点について、「資料調査の入り口」「インターネットとデータベース」を挙げた受講生が多かった。
 - ・ 授業全体について、4名からコメント・提案を得た。肯定的な意見が多かった一方で、授業全体の一貫性が感じられないといったコメントもあった。

(文責：山岸 瑤果、村上 史歩)